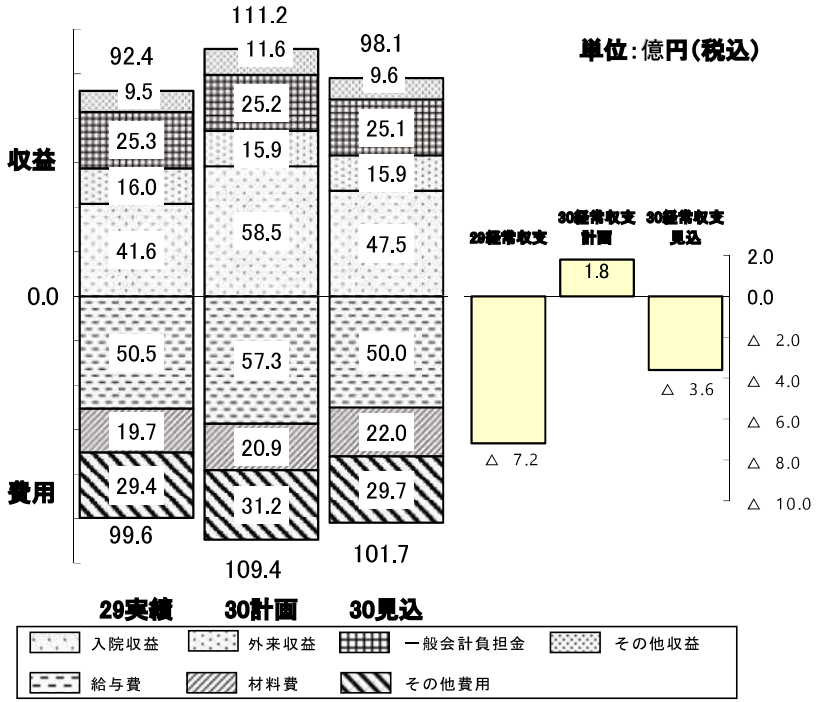
小児保健医療総合センターの取組状況

資料6

1　平成30年度計画と決算見込比較



＜収益＞

収益は98.1億円で、計画（111.2億円）に比較し13.1億円の減収。

・入院収益は、患者数や手術件数の減などにより11.0億円の減収。

＜費用＞

費用は101.7億円で、計画（109.4億円）に比較して7.7億円の減少。

・給与費は、医師等の欠員や計画と実績の単価差により7.3億円の減少。

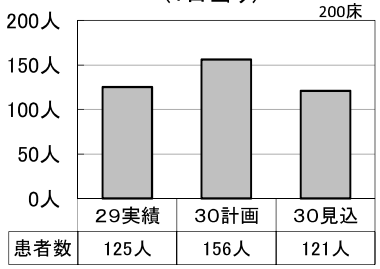
・材料費は、高額な薬品等の使用量の増などにより1.1億円の増加。

・その他費用は、経費の減などにより1.5億円の減少。

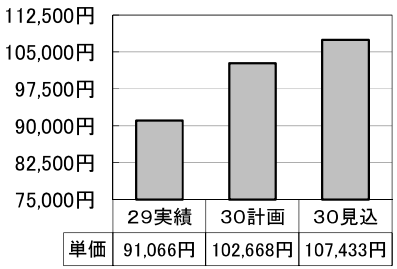
＜経常収支＞

経常収支は3.6億円の赤字となる見込みで、計画（1.8億円の黒字）に比べ5.4億円下回る。

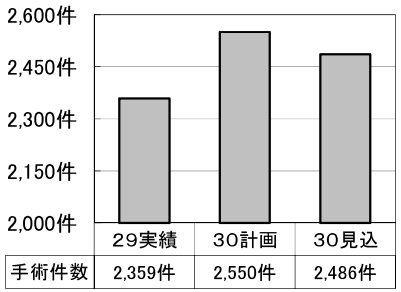
入院患者数
（1日当り）　許可病床数 200床



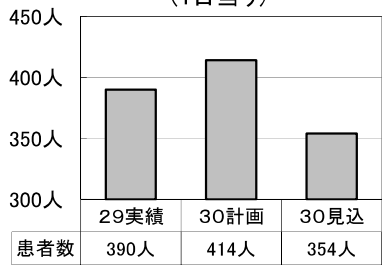
入院単価



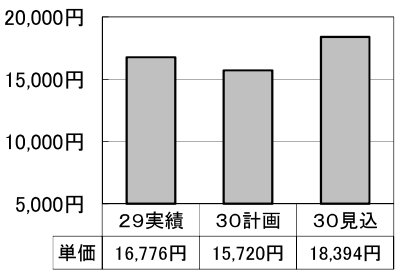
手術件数



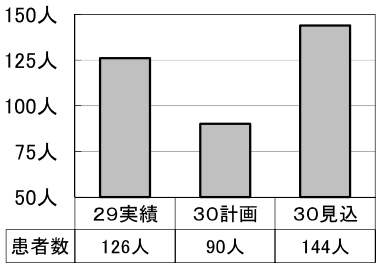
外来患者数
（1日当り）



外来単価



ICU緊急入院患者数



【参考】収益的収支見込（小児保健医療総合センター）

（単位:億円）

		H29 決算	H30		
			計画	見込	見込－計画
収益	入院収益	41.6	58.5	47.5	△ 11.0
	外来収益	16.0	15.9	15.9	0
	一般会計負担金	25.3	25.2	25.1	△ 0.1
	その他収益	9.5	11.6	9.6	△ 2.0
	収益 計	92.4	111.2	98.1	△ 13.1
費用	給与費	50.5	57.3	50.0	△ 7.3
	材料費	19.7	20.9	22.0	1.1
	その他費用	29.4	31.2	29.7	△ 1.5
	費用 計	99.6	109.4	101.7	△ 7.7
経常損益		△ 7.2	1.8	△ 3.6	△ 5.4
経常収支比率		92.8%	101.6%	96.5%	−5.1%
医業収支比率		70.1%	79.1%	73.6%	−5.5%

※ 特別利益、特別損失を除く

2　目標（成果指標）の達成状況

成果指標	単位	H29 実績	H30 目標	H30 見込	達成率
新外来患者数(初診料算定数)	人	9,596	8,400	9,855	117.3%
1日当たり外来患者数	人	390.3	414.0	354.0	85.5%
新入院患者数	人	7,120	7,450	7,376	99.0%
病床利用率	%	62.5	78.0	60.5	77.6%
手術件数	件	2,359	2,550	2,486	97.5%
救急患者数	人	7,066	6,200	7,723	124.6%
緊急入院患者数	人	1,097	1,180	1,174	99.5%
ICU緊急入院患者数	人	126	90	144	160.0%
保健医療相談件数	件	5,500	5,250	5,538	105.5%
ボランティア登録者数	人	98	70	91	130.0%

3　経営改善に関連する主要な取組

（1）ＤＰＣ参加による増収

診療報酬委員会とＤＰＣコーディング委員会が協力し、ＤＰＣ病院として参加する前後（平成 29 年度末～平成 30 年度始め）に下記事項を実施した。

① ＤＰＣや診療報酬に関する院内勉強会を４回実施した。

② 出来高対比の悪い症例のコーディングや入院期間を検討した。

③ ＤＰＣに参加することにより算定できるようになった加算等をできる限り算定するように院内周知を行った。

（平成 30 年４月～12 月までの出来高対比は約 1.4 億円の増収）

今後、更なる増収を図るため、加算等の未算定事例をチェックし、算定に結び付けていく。

（2）クリニカルパス使用率の向上

当センタークリニカルパス部会では多職種が議論し、新規のパスを作成したり、既存のパスを改善したりしている。その結果、クリニカルパス使用率（クリニカルパス適応患者数／新入院患者数）は増加している。

（H28 年度　28.5%　⇒　H29 年度　47.4%　⇒　H30 年度（4 月～9 月）　57.6%）

クリニカルパスを活用することより治療内容が標準化され、医療の質が担保される。また、可視化により業務の効率化が期待される。現状数字化するのは難しいが、標準化や効率化による労務軽減や算定漏れ防止が期待される。

（3）急性期病棟看護補助体制加算の算定開始

委託業務適正化会議で検討し、平成 30 年 10 月より病棟看護補助業務の派遣委託を開始した。これにより、急性期病棟看護補助体制加算（25 対 1）を算定することができた。（増収見込額　約 4,000 万円）

今後は夜間の看護補助職員採用等も検討していく。